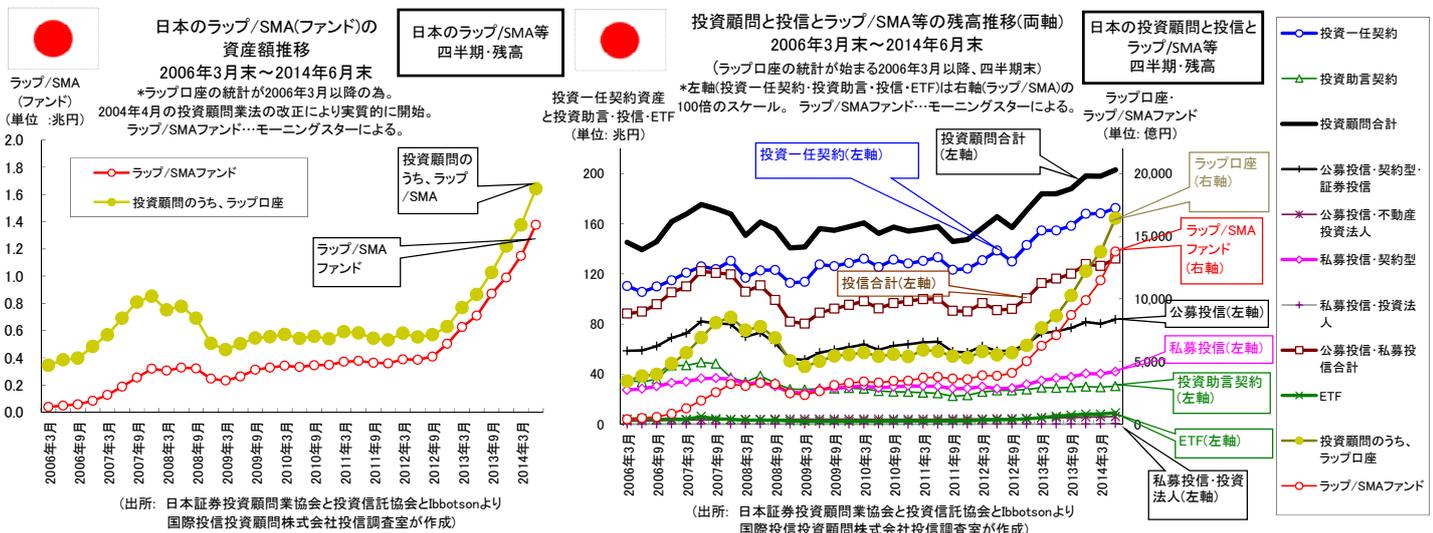


※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

ラップ/SMA(ファンド)の伸びが前年比2倍で、水準は過去最高を更新し続けている

ラップ/SMA(Separately Managed Account)が急拡大している。2014年9月8日付産経ニュースは「**金融機関に運用を一任する『ラップ口座』の顧客獲得競争が激しさを増している。デフレ脱却を見据えた個人投資家による需要が高まり、1年前から契約総額がほぼ倍増するなど市場の急拡大が背景にある。これまで、大和証券と三井住友信託銀行がラップ口座『2強』といわれていたが、証券最大手の野村証券が全本支店に取り扱いを広げ、銀行系証券も本腰を入れ始めている。』**(URLは後述[参考ホームページ])と報じている。

この記事は、2014年9月4日に日本投資顧問業協会が発表したラップ口座の最新統計を受けたものである。2014年6月末に日本のラップ口座の契約資産残高は1兆6430億円と、前年同月2013年6月末の8655億円から約2倍と、過去最高を大きく更新した(下記グラフ左)。契約件数も12万9492件と、前年同月末の5万9596件から2倍強に増加している。ラップ口座の契約資産残高の伸びに比例して、ラップ口座で投資されるラップ/SMA向けファンドの純資産残高も延びており、2014年6月末に1兆3770億円と前年同月末の7100億円から約2倍と、大きく伸びている(下記グラフ左)。ラップ口座も、ラップ/SMA向けファンドも、ラップ口座を含む投資顧問や投信と比べても大きな伸びとなっている(下記グラフ右)。



尚、上記グラフには含まれていないが、ラップ/SMA向けファンドの純資産残高は2014年8月末まで判明しており、1兆6847億円と、2013年7月末以来1年2カ月、過去最高を更新し続けている(月次ベース)。

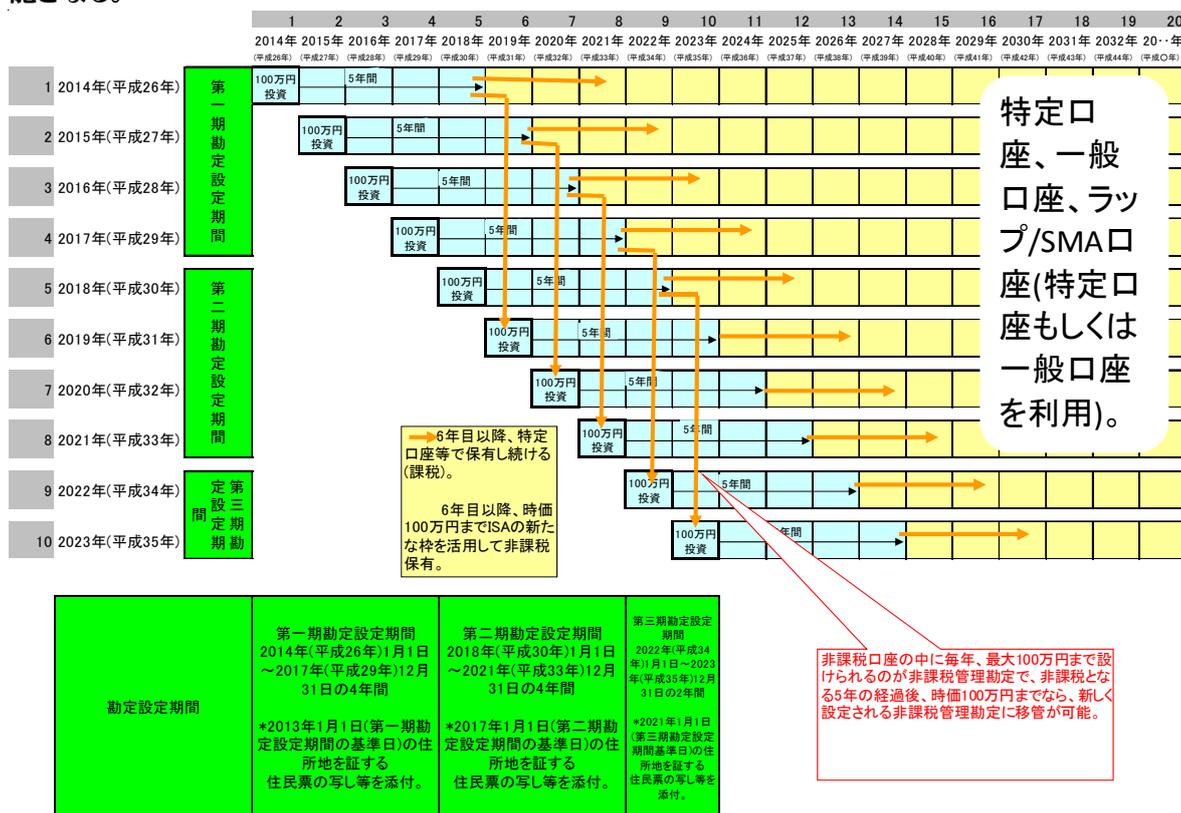
ラップ/SMAとは、証券会社や信託銀行等が「顧客の資産管理、投資一任による運用、売買執行、口座管理など資産運用に関するさまざまなサービスを総合的に行い、このサービスにかかる手数料は、個別の売買のたびにかかるのではなく、投資顧問報酬、有価証券の売買手数料、口座管理料などの手数料が、運用資産残高に応じて一括して支払われるもの」(投資顧問業協会～URLは後述[参考ホームページ])とされる。

NISA vs ラップ/SMA(ファンド)!

ラップ/SMA だが、証券会社や信託銀行のコンサルタントが個別のニーズに対応し、株式や債券、投信など幅広く金融商品を取り扱う投資一任契約(*「SMA」と呼ばれる事が多い)の最低契約金額は「3000 万円以上」から「3 億円以上」のレンジ、投信だけで予め決まったコース(スタイル)を選べる投資一任契約(*「ファンドラップ」と呼ばれる事が多い)の最低契約金額は「300 万円以上」から「1000 万円以上」と言うレンジである。

ファンドラップの最低契約金額でも「300 万円以上」である事から、上限 100 万円の少額投資非課税制度(NISA)とラップ/SMA は無縁の様に思われる。しかし NISA の制度趣旨の一つに「分散投資の促進等による普及・拡充や国内外の資産への長期・分散投資による資産形成の機会を幅広い家計に提供する観点から日本版 ISA について所要の検討を行い、自助努力に基づく資産形成を支援・促進し、家計からの成長マネーの供給拡大を図る。」(2012 年 7 月 31 日閣議決定の「日本再戦略」~URL は後述[参考ホームページ])とある様に、ラップ/SMA で使われる資産運用手法を NISA で活用する事も期待されている。既にラップ/SMA で使われる資産運用手法を使う投信もあり、それであれば NISA に適用する事が可能である(*これはラップ/SMA ではないのでラップ/SMA 手数料はかからないが、購入時手数料のかかる場合がある)。

さらに、「NISA が導入され、これを契機に資産運用を始める方が増加すると期待されていることです。NISA 導入を受けて日本においても分散投資やリスク管理の重要性について理解が進めば、こうした点を意識するお客様にとってファンドラップは非常にフィットしたサービスになると思われます。」(モーニングスタージャパン HP~URL は後述[参考ホームページ])や「NISA は年間 100 万円が投資金額の上限。個人マネーの『貯蓄から投資』が活性化し、NISA の枠を超えて運用ニーズが拡大すると証券各社は見込んでいる。」(2013 年 11 月 6 日付日本経済新聞夕刊~URL は後述[参考ホームページ])とある様に、NISA の「次」を見て(NISA の枠を超えて)、NISA で形成した 5 年間元本 500 万円分をファンドラップにする、もしくは、自身の資金を加え、より本格的な SMA にする事も可能となる。



(出: 所: 税制改正関連法より国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

NISA 本家・英国の”Wrap ISA”とは？

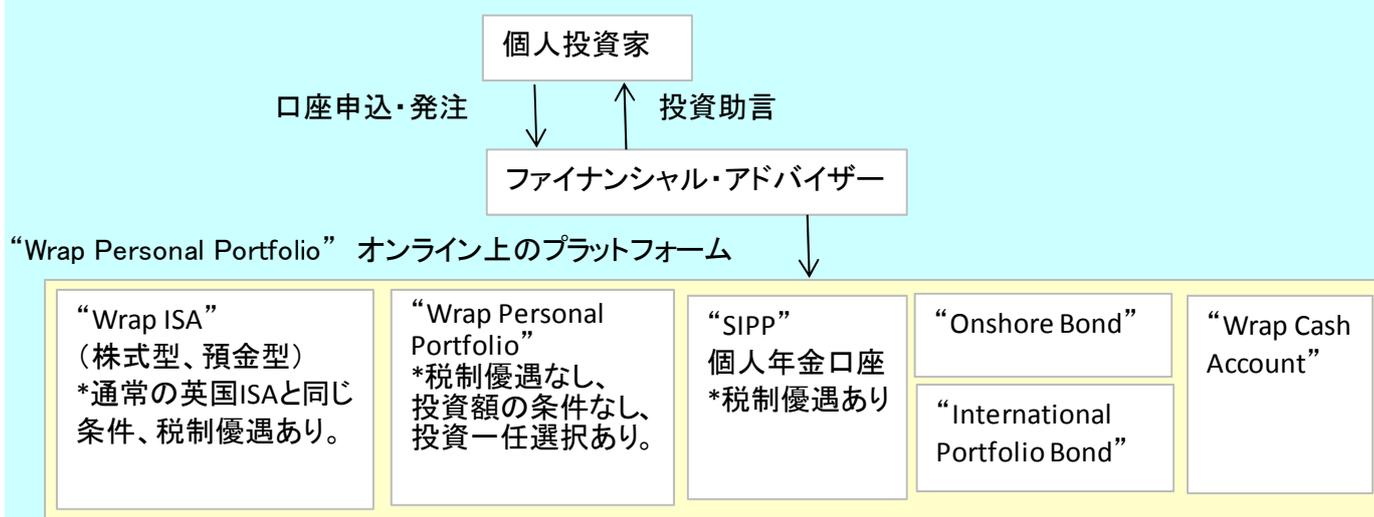
英国では ISA をラップ/SMA 的な手法で ISA を考えている!!

NISA の本家・英国ではどうだろうか？ 例えば、英国の大手生命保険会社スタンダード・ライフ社 (Standard Life Saving) が 2006 年に開始した”Wrap/Wrap platform”が興味深い。ここでは ISA や保険等の商品を、”Wrap ISA”や” Wrap Personal Portfolio”などという名のサービスで 1300 名のファイナンシャル・アドバイザーを使い、個人投資家にオンライン提供しているのだ(*スタンダード・ライフ社については 2014 年 8 月 25 日付日本版 ISA の道その 68 参照～URL は後述[参考ホームページ])。

より詳しく説明すると、個人投資家は”Wrap/Wrap platform”に口座を開設、ファイナンシャル・アドバイザーからの投資助言を受ける。顧客が投資指図をする事も出来るが、投資一任 (Discretionary Investment Managers) とする事も出来る(ファイナンシャル・アドバイザーが投資家に対し ISA とそれ以外の金融商品をトータルにみて投資アドバイスから管理まで行う)。この”Wrap/Wrap platform”で取り扱われる ISA や SIPP (Self-invested Personal Pensions/自己投資型個人年金)等を通じ、株式や債券、投資信託等さまざまな金融商品に投資出来るほか、口座に関するレポートが作成され、商品に関する様々な情報も入手出来る。

尚、”Wrap/Wrap platform”には、”Wrap Personal Portfolio” と”Wrap ISA”の二種類の選択肢があり、”Wrap ISA”は、通常の英国 ISA と同様、株式型と預金型があつて投資上限額まで非課税となる。これに対して”Wrap Personal Portfolio”は、税制優遇制度が適用されず、投資上限額や最低投資額、投資対象商品などの条件もないので、”Wrap ISA”を補完するものとなっており、ISA の投資上限額を超える投資や ISA の対象外の金融商品に投資される場合が多い。

英スタンダード・ライフ社のWrap



(出所: 英スタンダード・ライフ社HPより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

この他、英モーニングスターは”Ready-made ISA”というサービスを提供している。これは、投資家が口座開設をすると、英モーニングスターの関連会社 ”Sharefunds” の提供する 3 本の FOF が紹介され、投資家はリスク許容度等に応じ、その中から FOF を選択する。これは、日米で言う所のファンドラップに近いサービスである。

この様に、英国では、”Wrap ISA”などと言う名前で、ISA を Wrap/Wrap platform の一部と見なし、日米で言う所のラップ/SMA 的な手法で ISA を考えている。まさに ISA の「次」を見ている(ISA の枠を超えている)と言える。

[参考ホームページ]

2014年9月8日付け産経ニュース…「<http://www.sankei.com/economy/news/140908/ecn1409080044-n1.html>」、日本投資顧問業協会「ラップ口座」…「<http://www.jiaa.or.jp/syuppan/pdf/kashikoku20.pdf>」、2012年7月31日に閣議決定された「日本再生戦略」(p.40「金融戦略」)…「http://www.cas.go.jp/jp/tpp/pdf/2/10.20120918_5.pdf」、モーニングスタージャパン HP…「<http://www.morningstar.co.jp/event/1307/smbcnikko/index.html>」、2009年3月1日付け『週刊エコノミスト増刊』賢く使おう！ラップ口座…「<http://www.weekly-economist.com/>」、2013年11月6日付日本経済新聞夕刊「証券大手、運用一任口座を拡充投資額下げやコース新設 個人資金取り込む」…「http://www.nikkei.com/news/print-article/?R_FLG=0&bf=0&ng=DGXDZO62175650W3A101C1MM0000&uah=DF280820135600」、2014年8月18日付日本版ISAの道[特別号]「投資信託事情」(2014年8月号)抜粋「日米欧でノーロードが増加中！米国ではRIA等アドバイザーの存在が大きく、欧州では公的年金基金等にも要因がある～投信手数料から見た日米欧の純流出入と純資産～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140818.pdf>」、2014年8月4日付日本版ISAの道その66「英米で投資一任のオンライン化が進んでいる！～イギリスのISAでアメリカのラップ/SMAの様なサービスを提供するプラットフォーム会社に脚光～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140804.pdf>」、2014年8月25日付日本版ISAの道その68「天引きNISA(職域NISA、ワークプレイスNISA)のガイドラインが10月から適用! 確定拠出年金(DC)等と共に給与で積立投資!! 英国ワークプレイスISA(WISA)の今。」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140825.pdf>」、英スタンダード・ライブ社 Wrap Personal Portfolio…「<https://www.adviserzone.com/adviser/public/adviserzone/propositions/wrap/productwrappers/wrapisa>」、モーニングスターUKのHP…「<http://www.morningstar.co.uk/uk/isaquickrank/default.aspx>」、英 Sharefunds のHP…「https://www.share.com/readvisa/?utm_source=morningstar&utm_medium=Banner&utm_campaign=ISA_to_go」。

以上
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
 - 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
 - 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
 - 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。
- また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。